

南無阿弥陀仏は
私のいのち



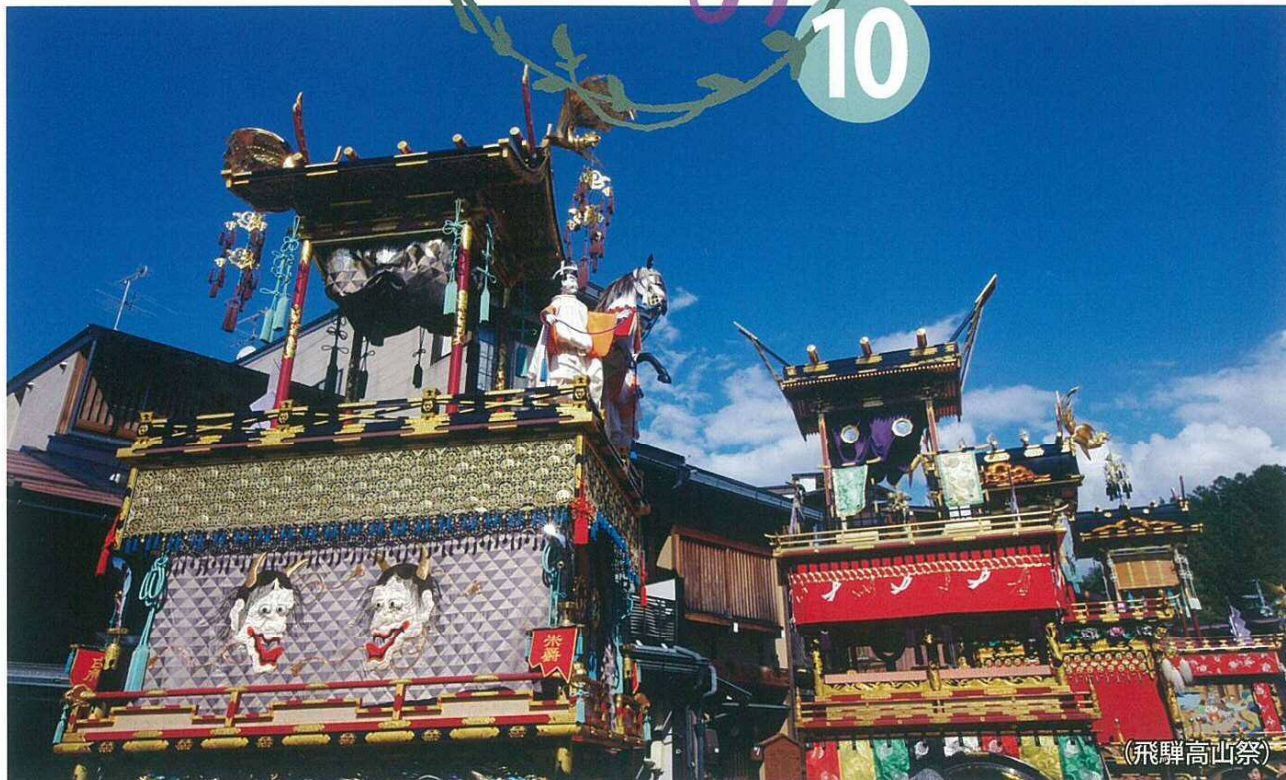
〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19

発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺

TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



いのちの叫び

山あいの小さな村に
不戦の像が建っていた
幼い子を背負い

小さな男の子を連れ立つ若い母親の像

どこにでも見られた五十年前の日本の姿だ

この母親はかつての私の母であり

男の子は私たちの子供の姿であった

像の前に二本の老いた松が枝を広げていた

父や夫や我が子が戦場に行く時

村中で見送る場であったという

お父さん行かないで お父さん死なないで

お父さん帰ってきて

母と子が声をかぎりに叫びたかったであろう

溢れる涙は奥深く飲み込んで

笑いをやつとこっそり

最後の別れとしたのだった

お父さん お父さん

像の上で小さい男の子が

右手を空に突き上げて叫んでいる声が

山あいの村から聞こえてくる

五十年の歳月は歴史を風化する

不戦の像とのめぐり逢い

忘れかけた自分を取り戻してくれた

あの悲惨さとむなしさを

(不戦の像から)

報恩講のご案内

合唱団「エコー」 が歌います！

11月7日(土)

11時半～ 西徳寺 本堂

指揮 朝田祐子

ピアノ 金澤麻里子

しんしゅうしゅうか おんどくさん
真宗宗歌・恩徳讃・七つの子・
夕焼小焼 など

「エコー」は毎回本堂で練習を積み重ねております。報恩講の場で仏教歌が歌えることを嬉しく思います。皆さんがご存知の曲も歌いますので、ぜひお越し下さい。



報恩講は親鸞聖人のご命日に法事をお勤めすることです。法事とは仏法の事、仏法とは南無阿弥陀仏のこと、南無阿弥陀仏は私のいのちであります。私のいのちは私のいのちでありながら、賜ったいのちでありますから、私を超えています。私有化ができません。私有化できないいのちは「死」を包んでいますので、生死と表され、「生」も「死」も尊いと教えられています。

最近では、仏事の簡略化の風潮の中で、死の尊さが簡略化されてしまいがちであります。釜前の読経で片付ける心根を問題にしたいのであります。死んだらお終いではないのです。親鸞聖人は娑婆に如何に大事なことがあっても、そのこと以上に生死の迷いを超える道を求め抜かれて、ついに法然上人巡り逢われました。

ある詩の一節に「潤いを失い 渇いた心がひしめき 記号化された人間が行き場のない夕暮れの 悲歎と悲哀に沈んでいく」(ざいんから)現実、人間回復の、輝きを与える南無阿弥陀仏。つまり本願念仏の道を見いだされたのであります。もし、このことがなかったならば、人類救済の道は開かれなかったのでありましょう。そのご恩を改めて深く思います。

大勢のご参詣、こころよりお待ち申し上げます。

合 掌

記

11月7日(土)

午前10時

しよにつちゅう しようきよう いっしゅびき
初日中「小経・一首引」

法話

午前11時30分

西徳寺混声合唱団「エコー」演奏会

正午

お斎

午後1時30分

おわたいや おんぶつしやうしんげ もんるい ななしゅびき
大連夜「念佛正信偈(文類)・七首引」

午後2時30分

法話

午後3時30分

ごでんもん
「御伝文」拝読 仲井真裕

11月8日(日)

午前10時

まんにつちゅう ぎようふしやうしんげ さんしゅびき
満日中「行譜正信偈・三首引」

法話

正午

お斎

午後1時30分

いんないほうよう ぎげしやうしんげ いっしゅびき
院内法要「舌々正信偈・一首引」

法話

布教使 真宗 佛光寺派 布教使

大阪府堺市・高照寺住職

すみや としき
隅谷 俊紀 師

※両日ともお斎をご用意します。準備の都合上、10月24日(金)までに、同封したハガキでお申し込みください。

日誌

8月26日～28日 柏葉中学校職業体験
(木村丞真君・石川優希君参加)

8月27日・28日 宗祖忌

8月30日 仏教青年会主催バーベキュー大会
(参加者約200名)

9月5日

混声合唱団「エコー」練習

同行会「現代の聖典」に聞く 法話 蓮井 邦宗

9月7日・8日

中興忌

9月8日

仏教青年会「歎異抄」に聞く 講師 宗 正元師

9月9日

責任役員会・総代会

9月12日

定例聞法会・混声合唱団「エコー」練習

9月15日

『唯信鈔』に聞く(第15回) 講師 宗 正元師

9月16日

婦人会聞法会

親鸞さんのことば

浄土真宗に帰すれども
 眞実の心はありがたし
 虚仮不実のわが身に
 清浄の心もさらになし
 「愚禿悲歎述懐」

松井憲一

「実物は 見たことがない 俺の顔という川柳がありました。鏡に映った顔は、映っている顔であって、私の実物の顔ではありません。にもかかわらず、私たちは、自分のことは、顔だけでなくすべて自分が一番よく知っているとと思っています。「私の看板であるこの顔、それをよりによって自分だけが見られないことの怖さに、心が凍りつく」といわれた先生があります。それは、眞実に出遇われたからいわれたのでしょうか。知ってるつもり分かつてるつもりは、自分に気づこうとしないところです。これほど怖いものはないのであります。」

親鸞聖人は、「愚禿悲歎述懐」和讃

の冒頭（二首目）で、「浄土真宗に帰すれども 眞実の心はありがたし 虚仮不実のわが身に 清浄の心もさらになし」と詠われます。ここで「浄土真宗」というのは、宗教法人の名前の「浄土真宗」をいうのではなく、法然上人の開かれた浄土宗を眞実の宗（おね）とすること、お念仏を称えよという本願の呼びかけを信じて、浄土に生まれるという教えを浄土真宗ということです。

私たちは、浄土真宗に、身を投げてお念仏すれば、私の力ではかなわなくても、如来の力がはたらいて私を変革してくださる、眞実に近づいていけるように思っています。ところが、聖人は、「浄土真宗に帰すれども 眞実の心はありがたし」と、眞実に帰依したら、一点の眞実もない自分が明らかに見えてきたといわれるのです。浄土真宗に帰依していない時は問題にならなかつた自分の立ち場が、「浄土真宗に帰す」ことによって、明らかに変わった。浄土（純粹に淨らかな国）に帰することによって、自分や社会を眺めている私の現在地が、限りなく自我で汚染している穢土と知らされてきたといわれるのです。

そして、聖人は、浄土真宗に帰す

ことによつて、明らかに変わった「眞実の心はありがたし」を、さらに深く見つめて「虚仮不実のわが身に」といわれます。「虚仮不実のわが身」と、誤魔化すことのできない現在の身をおさえて、「虚仮偽りがんじがらめになつてゐるわが身といわれます。さらに、「不実」の身といわれますが、わたしたちは自分が不実だとは気づきません。他を不実として、他を責め他を悪ものにしていきます。その在り方そのものをおさえて不実といわれるのです。

わたしたちは、一人静かにおうとして、つなかりを離れては生きてはいけません。独裁者であっても、一人では生きていくことができません。お寺にも蚊取り線香や殺虫剤は置いてあります。自分の都合で、益虫・害虫と平然と分別するわたしたちは、殺生、嘘、偽りの虚仮・不実の身を離れて、生存できないのです。

この虚仮・不実で固められた身の呻きを、聖人はさらに「清浄の心もさらになし」と、清らかな心は自分のどこを探しても全く見あたらないと懺悔されます。浄土真宗に帰して照らされた「眞実の心はありがたし 虚仮不実のわが身に 清浄の心も

さらになし」という生存の事実は、懺悔しても清浄にはならないのです。このどうすることもできない、自分の生存に頭が下がるところに、「どうする必要もない」という声が聞こえてきます。それが、念仏もうせという阿弥陀仏の喚び声なのです。浄土真宗に帰して「眞実の心はありがたし 虚仮不実のわが身に 清浄の心もさらになし」と頷くのは、終着点ではありません。今のこのわが身をいただいて明るく生き尽くす、日々の出発点であります。



山門の言葉

はからずも 今 ここにいる

私が生まれ育った滋賀県から東京へ来て、今年で十一年目を迎える。

小学生の頃、「将来はスポーツインストラクターになる」と言っていた時からすると、現在の職場に勤めるとは想像も付かなかった。とにかく身体を動かすことが得意だった私にとってみれば、選択肢にはなかった今である。考えてみると、誰もが理想や希望を持ち、それらに向かって様々な取り組みを行うが、思った通りになる場合とそうならない場合とがある。このような事は「当たり前」と思われているかもしれないが、どうも軽く流せるような問題ではないと私は感じる。

これまでの日常生活を思い返してみると、自分の思い通りになるかならないか、というところで一喜一憂してきたのが私の事実であるが、如何に様々な出来事に流されている存在なのか、ということが思い知らされる。

このようにして、どこかはつきりしなかった自己が、思いもよらない形で

明らかになってくる今である。自分自身が何者か分からないまま生きるというのであれば、ただ空しく過ぎる人生になる。しかし、人生そのものに自己を明らかにしていく道があるならば、どこまでも歩み続けていける未来が開かれていると感じる。

自己がはつきりしない今、現実にある様々な出来事を通して「私」という存在を問い尋ねていける事は、思いがけない力となる。(大橋 伊知郎 記)

仏具磨きのお誘い

今年は11月7日(土)・8日(日)の両日、西徳寺の報恩講をお勤めいたします。昨年同様、今年も本堂内陣のお荘厳や会館の仏具磨き、境内等の清掃をお手伝いいたしたいと思います。お忙しいこととは存じますが、宜しくお願い申し上げます。

報恩講には、皆さんが心を込めて磨いた綺麗なお荘厳で、親鸞聖人のご恩を偲び一緒にお勤めをいたしましょう。

当日は昼食をご用意いたします。ご都合の付く方は是非ともご参加ください。

期 日 平成27年10月28日(水)
午前10時から

(雨天の場合、翌29日(木)に変更いたします)

場 所 西徳寺境内

※参加いただける方は、**10月24日(土)**までに寺務所までご連絡ください

TEL **03-3875-3351**

(主任 木村 記)



えこおじ 婦人会だより

第 313 号

ごあいさつ

西徳寺婦人は今まで独自で「婦人会だより」を発刊し、三十余年の歴史があります。しかし婦人会会員のみに止まらず、ご縁のある方々に婦人会の活動を知ってもらい、親しみをもってほしいという願いから、この度「えこお」の誌面にてご紹介させて頂くことになりました。

また興味のある方は是非一度ご参加下さい。西徳寺の御門徒でない方も大歓迎です。よろしくお願いたします。

次回聞法会ご案内

日時 平成 27 年 10 月 21 日(水)
午後 1 時～ 3 時
場所 西徳寺 星月の間
法話 標語に聞く～真宗教団連合カレンダーを中心として～
「生活の中で念仏するのでなく
念仏の上に生活がいとまされる」
代務住職 大谷 義博・山崎 哲

秋の日帰りバス旅行

～高尾山・うかい鳥山を訪ねる～

日 時 平成 27 年 11 月 18 日(水)
出発時間 西徳寺 8:00 / 上野公園口 8:30
帰着時間 17:00 ～ 17:30
会 費 12,000 円
申込締切 10 月 21 日

ひとこと

婦人会会員の丸山てるさんが亡くなったことを 9 月の婦人会だよりで知りました。丸山さんはお寺のためにも婦人会のためにもとても尽くして下さいました。

せめてご葬儀をお寺でするのでしたら、婦人会の有志でお世話になったてるさんのお見送りをしたかったなと思いました。

ただ申し訳なかったと云う思いで一杯です。

(小池 泰子)

俳風柳多留 250 周年の句会にて 婦人会会員のお三方が 選ばれましたので ご紹介いたします。

※「俳風柳多留」とは、江戸時代中期から幕末まで、ほぼ毎年刊行されていた川柳の句集。第 1 編の発行が 1765 年。

「平和ボケ」
ロボットが
葬式までも
指図する
多美子

「渾名」
スピッツと
呼ばれリボンの
似合う女
桂子

「天」
天空に
すればおもちゃの
電波塔
慶子

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしまして
ありがとうございます。
ご芳名の掲載をもって
お礼とさせて頂きます。

大阪府 光福寺 様
横浜市 広瀬 喜八 様
台東区 大林 藤枝 様

掲示板

平成27年10月

- 4日(日) 午後2時 城東ブロック会聞法会(小岩区民館)
 10日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 仲井 真裕
 11日(日) 午後2時 中央ブロック会総会・聞法会(西徳寺本堂)
 14日(水) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
 17日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後1時半 定例聞法会
 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
 21日(水) 午後1時 婦人会聞法会
 24日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 木村主任
 25日(日) 午後2時 城南ブロック会聞法会(三茶しゃれなあど)
 27日(火) 午後7時 仏教青年会座談会
 28日(水) 午前10時 仏具磨き
 31日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習

中央ブロック会聞法会

去る7月26日、猛暑の中、西徳寺・栴檀の間に聞法会が開かれました。もっと他の会員さんと気軽に話したいという声がかきつけとなり、開催のはこびとなりました。

茶話会の時間では、会員さんから興味を持っていることを話してもらい試みのもと、今回は本間明会長より相続税とマイナンバーについての話をいただきました。今現在の制度はどうなっているのか、今後の私達の生活はどうなっていくのか、会員の皆さんは熱心に聞き入っていました。

今回は10月11日(日)西徳寺本堂で行われます。皆さんのお越しをお待ちしております。(高橋 淳 記)



柏葉中学校 職業体験実習「清掃の大切さ」

拝啓

初秋の候、木村主任様をはじめ、西徳寺の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、先日はお忙しい中、私たちの職業体験のために時間をいただき、ありがとうございました。皆様に温かく迎えていただき、楽しく過ごすことができました。

職業体験を通じて、清掃の大切さや大変さを学ぶことができました。それは墓地为広く、清掃する量が多く大変でしたが、その清掃でお参りに来る人が気持ち良くお参りするためには大切だなと感じたからです。お経についても学ぶことができました。「経」という字の意味を教えていただき、深いなと思いました。写経も心を落ち着かせることができ、良い体験ができました。ありがとうございました。

今後の生活で清掃をする時は、気持ちよくなれるように、しっかりときれいにすることを心がけていきます。お経について学んだことも忘れずに、これからの生活を過ごしていきます。この3日間、私たちに優しく接してくださり、そして貴重な経験をたくさんさせていただき、本当にありがとうございました。

昼夜寒暖の差が激しくなってまいりました。風邪など召されぬよう、お身体ご自愛ください。 敬具

平成27年9月1日

台東区立柏葉中学校 2年4組 木村 丞真・石川 優希 西徳寺御中



仏教青年会主催バーベキュー大会

去る8月30日(日)、毎年恒例となりましたバーベキュー大会を開催いたしました。あいにくの天気の中でしたが、私どもの予想を超える約200名の参加をいただき、盛大なバーベキュー大会となりました。

本堂でお勤めした後、雨の中でも子供たちは元気に走り回り、スイカ割りや花火等をして、非常に賑やかでした。

尚、今回も皆様から戴きました会寄・付金3万3千円は、東日本大震災で甚大な被害に遭われた方々への義援金として、福島県自治体に送金いたしました。

今年も様々な方からたくさんのご寄付とご協力をいただき、開催することが出来ました。ありがとうございました。

また来年もお誘い合わせの上で参加ください。(仲井 真裕 記)



編集後記

金木犀は秋の短い一時期に、オレンジ色の花を株いっぱいに咲かせる美しい花木で、最大の魅力は心地よい「香り」で、花期にはさわやかな香りを漂わせます。

花の香りがよいことから茶や酒と一緒に楽しまれ、中国の「桂花酒」は楊貴妃が好んだ酒といわれ、「桂」は金木犀のことをさす言葉だといわれています。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com